

令和3年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト事業 (地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

成果報告書

令和4年3月

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

□ ■ 目次 ■ □

I	事業実施にあたっての「基本的な考え方」	1
	（1）事業実施の趣旨	
	（2）事業の実施体制	
	（3）実施体制図	2
II	令和3年度事業実施日程	3
III	プロジェクト実行委員会	5
	（1）会議の目的	
	（2）検討事項	
	（3）実行委員会委員	
	（4）実行委員会の開催	
IV	実践研究	15
	（1）障害者スポーツ活動の発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組のモデルづくり	15
	（2）放課後や休日等を活用した取組のモデルづくり （運動を希望する生徒や障害者福祉施設入所者等をターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組）	18
	（3）特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり （在校生や卒業生、障害者福祉施設入所者をターゲットとした取組や障害者スポーツの理解啓発の取組）	23
	（4）地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組のモデルづくり	31
V	成果と課題	39
	【参考】	40
	高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱	
	高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿	

I 事業実施にあたっての「基本的な考え方」

(1) 事業実施の趣旨

本県の障害者のスポーツ活動の中心的な役割を担っている県立障害者スポーツセンターは、県中央部に位置しており、県東部や西部におけるスポーツ活動の支援には限界がある。また、それぞれの地域で根ざし重要な役割を担っている特別支援学校や市町村社会福祉協議会なども対象者が限定的であり、単独で動くことが多いことなどから、障害者のスポーツ活動に地域差が生じていたり、運動習慣の定着が十分でないといった課題がみられる。

これらの課題を踏まえ、平成28年度より地域における障害者スポーツ普及促進事業において、県障害者スポーツセンター・総合型地域スポーツクラブ・特別支援学校・市町村社会福祉協議会・各福祉施設など様々な団体が連携した取組を実践研究として行ってきた。

県西部での障害者陸上教室の実施や、総合型地域スポーツクラブが特別支援学校（主に知的障害）へアプローチする取組により、障害者のスポーツ活動の場の提供とともに、各関係団体の連携が生まれ深まりつつある。さらに、障害者とその保護者、また、障害者福祉施設入所者や職員等と総合型地域スポーツクラブスタッフや各競技団体スタッフ等の間に信頼関係が構築された。このことにより、総合型地域スポーツクラブに障害者が参加するバドミントンサークルが立ち上がったことや障害者福祉施設の職員が自主的に日常的なスポーツ活動を計画するなど大きな成果にもつながっている。

令和3年度の事業は、これまで取り組んできた成果を生かしつつ、地元の関係者との連携強化に必要な人材に協力を求め、「特別支援学校の在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした取組や障害スポーツの理解啓発の取組」や「地域の障害者福祉施設入所者やその家族をターゲットとした取組」により、障害当事者以外も巻き込んだ取組を展開し、障害者スポーツの活動を継続的に提供し、充実させるための基盤づくりを行い、本事業を各団体の自主事業等として取り込み、発展的に継続させることを目的とする。

<事業終了後>

既存事業と関連づけながら本事業での取組を各団体の自主事業として継続、充実させ、その成果を県内に広く普及することにより、障害のある方が身近な地域で安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供するとともに、関係者のネットワークの強化を図り、障害者のスポーツ参加の拡大と障害の有無に関わらず誰もが一緒に活動することができる共生社会の実現につなげる。

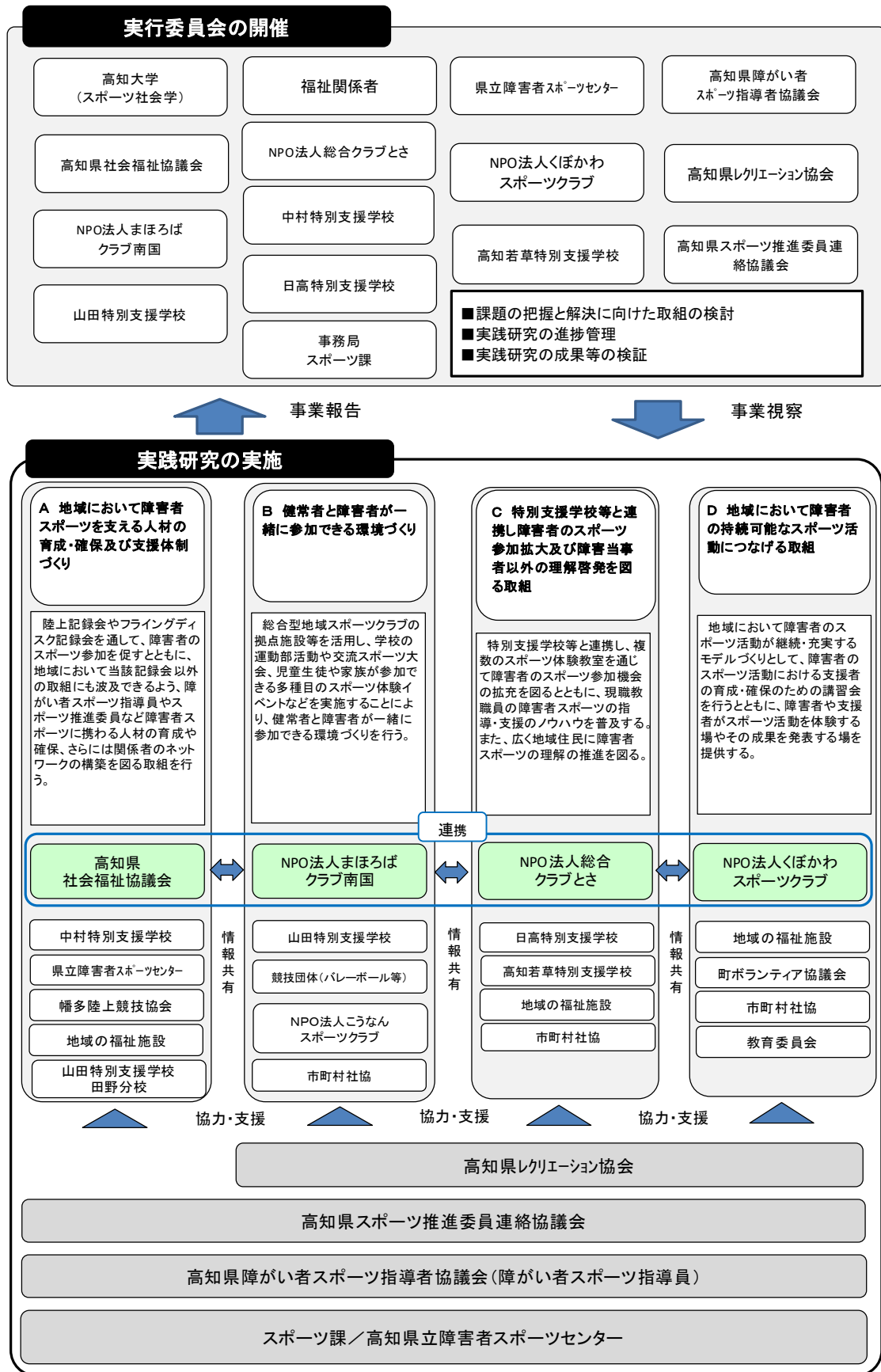
(2) 事業の実施体制

■高知県文化体育スポーツ部スポーツ課

統括責任者1名：実行委員会の調整・運営、実践研究担当者への指導 等

実践研究担当者2名：各実践研究のサポート

(3) 実施体制図



Ⅱ 事業実施日程

実施月日	実施内容
令和3年8月6日	【くぼかわ】第1回関係者検討会議
令和3年8月19日	【事務局】第1回実行委員会
令和3年8月19日	【とさ】くすのき園とのリモート教室
令和3年8月27日	【とさ】第1回関係者検討会議
令和3年9月21日	【まほろば】第1回関係者検討会議
令和3年9月28日	【とさ】くすのき園とのリモート教室
令和3年10月13日	【県社協】競技運営会議、第1回審判会議
令和3年10月20日	【事務局】第2回実行委員会
令和3年10月21日	【とさ】くすのき園とのリモート教室
令和3年10月27日	【県社協】関係者検討会議
令和3年11月4日	【とさ】教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：シッティングバレー）
令和3年11月6日	【県社協】県西部 幡多地区陸上競技記録会
令和3年11月12日	【くぼかわ】福祉施設（由菜の里）スポーツ体験教室（ボッチャ）①
令和3年11月13日	【とさ】障害者スポーツの体験理解（車いすバスケットボール）
令和3年11月15日	【まほろば】休日、放課後スポーツ体験教室（フライングディスク）①
令和3年11月16日	【とさ】教員への障害者スポーツ普及体験教室（若草特別支援学校：フライングディスク、ボッチャ）
令和3年11月16日	【くぼかわ】福祉施設（由菜の里）スポーツ体験教室（ボッチャ）②
令和3年11月17日	【くぼかわ】ボッチャ指導者講習会（教職員）
令和3年11月18日	【県社協】第2回関係者検討会議
令和3年11月18日	【とさ】教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：フライングディスク）
令和3年11月19日	【くぼかわ】福祉施設（由菜の里）スポーツ体験教室（フライングディスク）①
令和3年11月22日	【まほろば】休日、放課後スポーツ体験教室（フライングディスク）②
令和3年11月23日	【まほろば】まほろば秋の感謝祭
令和3年11月25日	【とさ】教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：フライングディスク）
令和3年11月26日	【とさ】くすのき園とのリモート教室
令和3年11月26日	【くぼかわ】・AM 福祉施設スポーツ体験教室（川口小学校：ボッチャ） ・PM 福祉施設スポーツ体験教室（川口小学校・由菜の里合同：ボッチャ）
令和3年11月30日	【くぼかわ】福祉施設スポーツ体験教室（オイコニア：ボッチャリモート教室）
令和3年12月1日	【くぼかわ】第2回関係者検討会議

令和3年12月2日	【とさ】 教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：シッティングバレー）
令和3年12月5日	【まほろば】 運動部活動への指導者の派遣（バレーボール）①
令和3年12月7日	【くぼかわ】 福祉施設スポーツ体験教室（十川小：ボッチャ教室）
令和3年12月8日	【とさ】 障害者スポーツの理解促進（戸波中：ゴールボール）
令和3年12月9日	【まほろば】 運動部活動への指導者の派遣（バドミントン）①
令和3年12月9日	【とさ】 教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：バドミントン）
令和3年12月11日	【まほろば】 休日、放課後スポーツ体験教室（バドミントン）①
令和3年12月13日	【まほろば】 運動部活動への指導者の派遣（バドミントン）②
令和3年12月14日	【とさ】 第2回関係者検討会議
令和3年12月16日	【まほろば】 運動部活動への指導者の派遣（バドミントン）③
令和3年12月16日	【とさ】 教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：ゴールボール）
令和3年12月17日	【とさ】 くすのき園とのリモート教室
令和3年12月18日	【まほろば】 休日、放課後スポーツ体験教室（バドミントン）②
令和3年12月19日	【まほろば】 運動部活動への指導者の派遣（バレーボール）②
令和3年12月25日	【くぼかわ】 福祉施設スポーツ体験教室（由菜の里：ボッチャ教室）
令和4年1月14日	【とさ】 くすのき園とのリモート教室
令和4年1月21日	【まほろば】 第2回関係者検討会議
令和4年1月23日	【県社協】 県東部地区 フライングディスク記録会
令和4年1月27日	【とさ】 教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：バドミントン）
令和4年2月3日	【とさ】 教員への障害者スポーツ普及体験教室（日高特別支援学校：バドミントン）
令和4年2月4日	【くぼかわ】 福祉施設スポーツ体験教室（オイコニア：ボッチャリモート教室）
令和4年2月14日	【まほろば】 第3回関係者検討会議
令和4年2月16日	【とさ】 第3回関係者検討会議
令和4年2月17日	【くぼかわ】 第3回関係者検討会議
令和4年2月18日	【とさ】 くすのき園とのリモート教室
令和4年3月4日	【事務局】 第3回実行委員会

Ⅲ 障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

(1) 会議の目的

実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及する。

(2) 検討事項

- ①課題の把握と解決に向けた取組の検討
- ②実践研究の進捗管理
- ③実践研究の内容、成果等の検証

(3) 実行委員会委員 (11 人)

- 高知大学准教授 1 人
- 県社会福祉協議会 1 人
- 総合型地域スポーツクラブ関係者 3 人
- 学校関係者 4 人
- 県スポーツ推進委員連絡協議会 1 人
- 県レクリエーション協会 1 人

(4) 実行委員会の開催

会議名	日付	内容
第 1 回実行委員会	令和 3 年 8 月 19 日	事業内容について 意見交換
第 2 回実行委員会	令和 3 年 10 月 20 日	進捗状況について 意見交換
第 3 回実行委員会	令和 4 年 3 月 4 日	実績報告について 意見交換

障害者スポーツ推進プロジェクト 第1回実行委員会

■実施団体より事業概要説明

○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・ 県西部地域での陸上記録会の開催、県東部地域でのフライングディスクの記録会の開催を予定している。
- ・ 陸上記録会の運営は幡多陸上競技協会の支援を受けているが、今後、西部の障がい者スポーツ指導員の方々が担っていけるよう検討会議を通じた人材育成と地域の人材の組織化を進め、障がい者スポーツ指導員による運営を可能としたい。
- ・ 各種会議の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止のためリモートでの開催を検討し、各種会議を進める方向で考えていきたい。

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・ 関係者検討会議を3回/年実施する。
- ・ 昨年に引き続き、特別支援学校の運動部活動の練習に関して総合型地域スポーツクラブから指導者（陸上競技、バレーボール、バドミントン）を派遣をしたい。
- ・ 交流バドミントン大会の開催も予定しているため、新型コロナウイルス感染拡大防止策を検討しながら進めていきたい。
- ・ 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室を学校ではなく、総合スポーツクラブの体育館を利用してもらい体験してもらいたいと考えている。
- ・ 体育館が新型コロナウイルスワクチン接種会場やその他のイベントで使用予定があるため土日の使用がしづらい状況が続くが、放課後を利用したスポーツ活動を進めていきたい。

○総合クラブとさの取組について

- ・ 障害者スポーツの理解促進に向けた広報事業では、特別支援学校と調整を進め、9月にフライング教室を実施する予定。
- ・ IT技術を活用した障害者のスポーツ参画機会の創出では、リモート機器を活用して、地域の福祉施設に体操教室を配信していきたい。
- ・ 教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及では、いつもは特別支援学校でバドミントン教室を開催していたが、今年度は、総合型クラブの体育館に特別支援学校の生徒が来て他の子ども達と一緒にスポーツを行う取組みをすることとした。
- ・ 車いすバスケットボール、シッティングバレー、その他新しいスポーツも実施していきたい。
- ・ 支援学校の卒業生に対して何かできることがあるかどうかについて、市とも協議しながら進めていきたい。
- ・ リモート機器の活用では、リモートを受講する側に機器設置のスペースの不足等の課題を乗り越える工夫をしていきたい。

○くぼかわスポーツクラブの取組について

- ・地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室や各種目体験教室発表会では、コロナ禍でも実施できるようリモート機器を活用していきたい。
- ・自分達のリモート機器を使うことができない点が課題となっているため、事業をきっちり行ううえでも操作方法を習得したい。
- ・リモートでのスポーツ教室の開催方法が具体的にイメージできない点が課題なため、他の施設を参考にして進めていきたい。
- ・地域の各関係者（学校の教職員の方も含めて）を対象としたボッチャ等の障害者スポーツ種目の指導者講習会を行いたいと考えている。
- ・スポーツ交流大会は、母体となるお祭りが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になる見込みのため、中止にならざるを得ないと思うが、他の事業に注力していきたい。

■意見交換

○陸上記録会での参加資格を設けるかは検討会議で議論する予定。昨年度の陸上記録会は高知県内の四万十町より西に居住する方に参加者を限定することを検討委員会で検討した。（昨年は雨天のため中止）

- ・競技種目は50m走、100m走、ソフトボール投げ、スラローム等を実施予定。
- ・特別支援学校はリモート機器が整備されているので、新型コロナの影響が大きくある場合でも、総合クラブとさが行うフライングディスク教室の指導をリモート機器で受けられるので、相談して欲しい。
- ・リモート機器を利用した体操教室は福祉施設のくすのき園で行った。内容は、エアロビックスの講師が1時間行ったが、集中力が必要なので30分程度で進めていく予定。
- ・体育館で実施しているものを、リモート機器を通じて先方のリモート機器に映し出し体操を行う方式で実施。
- ・相手方のスペースの問題等があるため、実際に現場にいき課題を解決しながら進めている。
- ・リモート機器を活用したスポーツ教室等を開催する場合、相手方にスピーカーがあるかどうか等のスペックの事前確認や事前テスト、また、機器を置くスペースの有無も確認が必要と思われます。
- ・特別支援学校では新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度は計画通りに進められなかった。感染拡大下において、リモート機器を活用した取組みは有効であると感じている。子どもたちはYouTubeや各種動画を簡単に操作することができるので、リモートに慣れている。一方で、特別支援学校の卒業生が所属する作業所には余分なスペースがなかなかないと感じる。
- ・外部から学校に指導に行けない場合もあるため、教員の方にニュースポーツ等を覚えていただき、学校に戻って指導ができるようにするというのも有効な取組みだと感じる。
- ・リモート機器について、個人的にやるのであればスマートフォンを使用すれば良いので費用はかからないが、多くの人数が集まり、大型TVやスピーカーが必要になったりす

ると費用がかかる。

- リモート教室を開催する場合、最初の1～2回操作方法レクチャーをすると70歳代の方でも簡単に使用できていると感じる。
- スポーツ推進委員連絡協議会としては、高齢者や子ども達がボッチャ競技を楽しめるような普及推進の取組をしていきたい。また、地域住民のなかで、ボッチャ競技を通じて世代間交流ができるようにしたい。
- レクリエーション協会では、レクリエーションスポーツの道具の貸し出しができるので利用して欲しい。

障害者スポーツ推進プロジェクト 第2回実行委員会

■実施団体より事業概要説明

○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・新型コロナウイルス感染急拡大があったため、会議やスポーツ活動が実施できていない。
- ・今後、新型コロナウイルス感染状況が落ち着き始めているので、徐々に活動を再開したい。
- ・計画としては、大きな大会を2つ実施する予定。(県西部での陸上競技記録会、県東部でのフライングディスク記録会)
- ・県西部陸上競技記録会の内容を検討するため10/27に第1回目の検討会議を実施予定。
- ・事前に開催内容についてアンケート調査を実施し、10/27当日はAMに審判講習会を実施し、PMに検討会議を実施することとした。
- ・県東部でのフライングディスク記録会についての検討会議開催日は未定。県障害者スポーツ大会フライングディスク競技を県東部で開催する予定となっているため、そこに併せて、別の時間帯で開催する予定。
- ・なお、県東部では12月～1月の中の複数日で初級障がい者指導員養成講座を開催する予定。
- ・県西部での陸上競技記録会については、幡多陸上協会の協力の下、地域の障がい者スポーツ指導員を主体とした運営を行い、障がい者スポーツ指導員による自立的な運営を行う。参加者は50名程度を見込んでいる。(中村特別支援学校も参加する)

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・新型コロナウイルス感染急拡大があったため、会議や活動が十分に実施できていない。
- ・行事日程調整を目的に、9/21に関係者検討会議を実施。
- ・今後の予定としては、日常的な運動部活動へのバレーボール等の専門指導者の派遣については、山田特別支援学校にバレーボールの指導者の派遣を12月から複数回実施予定。
- ・また、バドミントン指導者の派遣も12月から複数回実施予定。
- ・交流バドミントン大会は1/29に実施予定。
- ・休日や放課後を利用したスポーツ体験教室は、12月にバドミントン、11月にフライングディスク競技を予定している。
- ・児童生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベントは11/23に南国市きらりとコラボして実施する予定。また、南国市にも声をかけ、骨密度、危機管理、高齢者体操等を実施する予定。
- ・PMはトランポリンやインラインスケートを実施する予定。

○総合クラブとさの取組について

- ・新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得ないイベントもあった。
- ・ダンス教室を開催したことによる利用者の変化を注視していきたい。
- ・リモートでの体操教室をくすのき園で行わせてもらっている。20人/回の参加がある。

- ・参加者はとても楽しそうに行っている。
- ・リモート機器を使うと、コロナ禍であってもスポーツ教室を開催することができる。一方で、相手方にもリモート機器が必要であることと、操作方法を知っている人がいないと運営が難しいことが分かった。
- ・施設の方に操作方法を教える場合に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外部からの立ち入りの制限があるというのも制約になった。
- ・色々と課題はあるが、リモート機器を活用したスポーツ活動を進めていきたい。

○くぼかわスポーツクラブの取組について

- ・9/26に第1回検討会を実施。第2回の検討会を11月中旬に開催を予定している。4団体に体験教室や種目別発表会に参加していただく予定だったが、オイコニア、やまびこ、あさぎりの方から本年度の体験教室の参加ができないとの話があった。オイコニアは、施設内で毎年体験教室を行っているが、外部指導者を施設の中に招き入れることができない、また、外部に施設の方が出て行くことができないということで、教室ができない状況となっている。
- ・対策として、指導者の講習会を開催予定なので、その講習会に施設職員の方に参加していただき、ボッチャの指導者の育成ができれば、職員が施設内でボッチャの指導ができるので、教室の開催が可能であると言って下さっている。
- ・やまびこも施設でできるとのことで、オイコニアと同様な形で行う予定である。
- ・あさぎりは、指導者の講習会には参加できるが、広いスペースがないので教室を行うことは無理であるとの話をいただいている。
- ・由菜の里さんは、10/9と10/16にボッチャと10/23に障害者スポーツセンターによるフライングディスクの体験を行っている。当日の勤務者はほぼ参加していただき、休務の方1名も参加いただいた。
- ・由菜の里の感染対策については、作業をされているので、限られた時間や日程の中で調整しながら参加となっている。
- ・ボッチャの成果としては、毎年参加してくださっている団体なので、ルールもある程度理解されており、スムーズに教室を行うことができている。2回程度の教室ではあるが、目に見えてレベルが上がっているのも、楽しく体験ができたように思う。課題としては、体験教室が終わるとボッチャをする機会がとれない状況になり、せっかくスキルが上がってきた中で、また期間が空いてしまうとスキルの低下が心配される。
- ・他の団体が教室に参加できないので、予算を参加できる団体に振り分け、持続して教室ができればと計画している。
- ・フライングディスクは、ドッチビーを使用したり、ディスクゴルフを行ったりと色々な工夫していただき、参加者の方も終始笑顔の中で体験教室ができた。参加者からの「本日は楽しく体が動かして良い運動になった。これからもこういう活動に是非参加していきたい。」との感想をいただいた。
- ・「各種目体験教室発表会」としてボッチャの大会を予定しているが、現段階で参加団体が少ないと言うところで大会開催は厳しいかと思われる。そこで、参加団体と健常者との

大会開催の可否を11月の第2回の検討会で話ができればと考えている。

- ・四万十ふくふくまつりは、障害者と健常者が交流する場があったが、新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度は中止となる。
- ・種目別の指導講習会は、福祉・教育・スポーツ関係者やコロナ禍で外部の指導者を招かれない施設の職員の方を対象に開催できたらと考えている。12月～1月に2回できたらと考えている。

■意見交換

- ・県西部の陸上記録会については、中土佐町から西部に居住し、障害者スポーツセンターに利用者登録している方及び過去の参加者を中心に参加募集をしており、50名程度が参加する予見込み。(R2年度の申込者数が46名)
- ・陸上記録会にもレクリエーション協会に同日参加してもらい、ニュースポーツをすることもイベントを盛り上げる要素になると思われる。
- ・イベントでトランポリンを体験する場合、車いすを利用するお子様でも介助者がいれば体験が可能だと思うので、イベント主催者として受け入れ準備を整えて開催したい。
- ・イベントに障害当事者に来てもらうための工夫としては特別なことはなく、地道な広報活動以外に方法はないと感じている。南国市の特別支援学校の保護者に案内を出したり、Uプロジェクト等の団体に行きPRをするといったことを地道に続けている。結果として、バドミントン交流大会には約40人ほどの障害当事者の参加があった。
- ・体験会等のイベントを通じて地域ボランティアスタッフとして、障がい者スポーツ指導員等の方々に参加してもらっている。ただ、自分たちの活動は障害者に特化した活動という認識では動いていないため、人材も純粋な地域ボランティアの活動になっていると考えている。(障害当事者のためのイベントや人材育成というわけではなく、主催するイベントはすべて障害の有無をとわない形で開催している)
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、イベント自体の開催も難しいが、参加する側も感染リスクを避けるために参加を自粛したり、施設への外部者の入場を制限する等の措置がとられる傾向にあり、スポーツ活動にも大きく影響が出ている。

障害者スポーツ推進プロジェクト 第3回実行委員会

■実施団体より事業概要説明

○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いている時期に検討会議、県西部での陸上記録会、（参加者 66 名）県東部でのフライングディスク記録会（参加者 9 名）を実施した。
- ・県西部での陸上記録会は、午前中に幡多地区陸上競技協会役員から記録会運営の方法（役割分担、具体的な内容）を障がい者スポーツ指導員が学び、午後の記録会で実践をする方法を取った。
- ・今回参加した指導員は地域での登録者 45 名中 19 名が参加した。
- ・障がい者スポーツ指導員になる方は、施設職員やスポーツ推進委員の方々が多い。
- ・西部地区のコーディネーターが指導員との情報交換会を開催し、横の繋がりを持たせ、指導員が主体的に取り組むための取組を徐々に進めている。
- ・これまでは、幡多地区陸上競技協会に運営を依存していたが、今後は障がい者スポーツ指導員による運営を行っていく。
- ・陸上記録会には、西部地区のコーディネーターや障がい者スポーツ指導員が施設、団体に情報提供を行ったことにより、様々な地域からの参加があった。今後も情報提供や人的なネットワークの構築を行う。
- ・東部でのフライングディスク記録会は、新型コロナウイルス感染症対策として、団体が相互に交錯しない方法で競技運営を行った。
- ・東部地区での参加者は特別支援学校の生徒が中心であった。他方で、在宅等を含む障害当事者の参加促進が課題となっている。
- ・これまでの取組は、R4 年度からは自主事業として各地区振興施策として継続する。

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・全体として、新型コロナウイルス感染拡大により、活動が十分に実施できなかったが、実施できた事業では参加者にとって有意義なスポーツ参加の機会になったと考える。
- ・バレーボール等の専門指導者の派遣については、長く継続して行っているため、壁のない人間関係の中で、良い活動ができています。他方で、送迎バスの調整が難しい場面もあった。今後は、バスではなく、参加者の体格に合わせたサイズの車両（ジャンボタクシー等）の方が、運転手の確保や配車が容易になるので改善したい。
- ・休日や放課後を利用したスポーツ体験教室では、総合型スポーツクラブの体育館を利用することで、特別支援学校の手校の生徒が、いつもの学校とは異なる環境でスポーツ活動することは、生徒の皆さんにとって良い刺激になっていると感じる。付き添いの保護者も参加できることもあり、継続していける内容になっていると感じる。
- ・多種目のスポーツ体験イベントでは、特別支援学校でイベントチラシを配付させてもらい、参加者が来られることを念頭に、障害当事者を通常イベントで楽しんでもらえるよう受け入れる準備ができたことは、総合型クラブとして一つの成果であったと思う。

- ・新型コロナウイルスの影響で、学校も活動ができなくなり、福祉施設も外部との接触が困難になったため、中止をせざるを得ない状況となったことは残念であった。
- ・今後、団体の事業として継続していくうえで、例えば、土日を使い、学校外の施設を使うのであれば、プログラムの内容をもっと面白くなるような内容に変えて継続していきたいと考えている。

○総合クラブとさの取組について

- ・関係者検討会議では、特別支援学校の卒業生がスポーツを継続する機会がもてるよう、卒業式の日に卒業後もスポーツ情報が欲しい人を募集するチラシを配付させてもらうことになっている。(個人情報保護に留意した形で実施する)
- ・福祉施設くすのき園とのリモート教室は毎月実施をした。講師により、リモートでの教室運営が得意な方とそうでない方がいることも分かることができた。
- ・教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及では、パラリンピックの種目であるゴールボールを行った。最初は、教員の方も怪我のリスクが高いのではないかと警戒していたが、講師の指導により、リスクは低く、とても楽しめる種目であることを理解していただいた。
- ・今回、バドミントン教室を学校でなく土佐市民体育館で行った。他校の中学生や小学生と切磋琢磨してバドミントンを行うことができた。生徒の方々はとても楽しみにしていて、バドミントンだけでなく、卓球やバスケットボールもやってみたいという要望があった。
- ・ボッチャの体験教室では、肩麻痺の障害を持つ当事者が講師となり指導をしてくれたため、生徒達が自分にもできるという感覚を持つことができた。
- ・今後は、これまでの取組状況を改善しながら、団体の活動として継続していく。

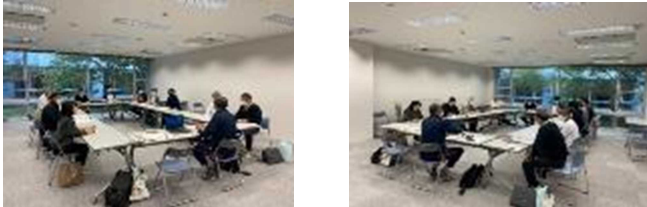
○くぼかわスポーツクラブの取組について

- ・全体的に新型コロナウイルス感染症の影響により、事業のスタートが遅れ、スケジュールが後倒しになりながら事業を実施した。
- ・リモート機器を用いながら福祉施設との体験教室を開催した。施設側の協力もないリモートでの開催は難しいが、協力的な環境の中で実施することができ、実施側としても良い経験となった。
- ・ボッチャをリモートで教えることは講師も初めてであったが、もう1名の講師がタブレットをカメラにして、より細かい指導ができる工夫をした。また、リモートでも指導しやすい部分にフォーカスをした指導を行った。
- ・教員への指導者講習会をした小学校が障害者スポーツを経験したいという要望が地域の社会福祉協議会を通じてあり、ボッチャを実施をした。
- ・ボッチャ体験をした小学校から道具の貸し出しの希望があり、貸し出しを行っている。こうしたことを通じて障害者スポーツの機会を増やしたいし、関係性も深めたいと考えている。
- ・これまでの取組は。地域スポーツハブや自主事業として継続していく。

■意見交換

- ・中村特別支援学校として幡多地区の陸上記録会に参加させてもらった。
- ・この記録会に向けて、体育の授業の中でフライングディスク競技や、陸上競技に取り組み、日頃の練習の成果を発表できる場ができ、生徒にとってとても意義のある記録会だと感じている。
- ・また、記録会の内容として、重度の障害があっても参加できる種目があり、そうした機会があることにとても感謝をしている。
- ・卒業した生徒が就労する施設の参加もあり、参加者数が増えたと実感している。
- ・各市町村の社会福祉競技会との連携を深めたい。
- ・コロナ禍にあっては、学校も総合型地域スポーツクラブの方々も残念ではあるが、やむを得ず中止の判断等をせざるを得ないと考えている。
- ・若草特別支援学校でフライングディスクを指導していただいた。特に、それぞれの障害特性を踏まえた上での指導がよかった。結果として、生徒自身が上達したことを感じる事ができており、とても感謝している。
- ・卒業後のスポーツイベントの案内をいただける機会があると、卒業生の健康維持や余暇の充実に繋がると考えている。

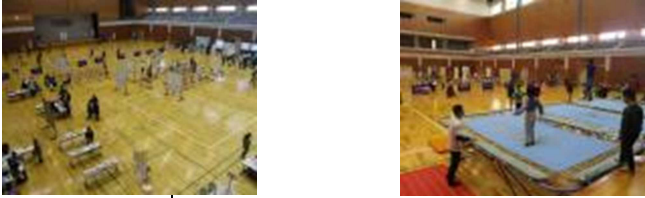
IV 実践研究

障害者のスポーツ活動の発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組			
実施団体	高知県社会福祉協議会		
取組の名称	関係者検討会議		
目的	障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため学校関係者、スポーツ指導者、社会福祉協議会などで構成する関係者検討会議を開催し、事業内容の計画、検証等を行う。		
取組写真			
連携機関等	障がい者スポーツ指導者協議会、知的障害者育成会、大方誠心園、ひかり共同作業所、わかふじ寮、中村特別支援学校、宿毛市スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスクラム、宿毛市社会福祉協議会等		
取組内容 種目・指導者等	関係者検討会議及び審判会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツ指導者協議会 5名 ・知的障害者育成会 1名 ・障害児者施設職員 3名 ・特別支援学校教員 1名 ・宿毛市スポーツ推進委員 1名 ・総合型地域スポーツクラブ 1名 ・宿毛市社会福祉協議会 1名 ・幡多地区陸上競技協会 2名 		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年10月13日 19:00~20:30	幡多地区陸上競技協会	2人	20人
令和3年10月27日 15:30~17:00	関係者検討会議委員	11人	
令和3年11月18日 15:30~17:00	関係者検討会議委員	7人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・競技会への参加の拡大に向けた情報発信や運営の工夫 ・地域での他の取組の拡充につなげるためのネットワークづくりの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染拡大により、当初予定していた日程での会議開催が難しく、大会直前に最終調整会議を行う状況となった。 (事前に内容についてのアンケート調査は実施) 		
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナの影響により、十分な検討会が行えない中でも積極的に意見を出していただき、次年度に向けた検討会となった。 ○幡多地域の障がい者スポーツ指導員の中から新規の方含め7名が検討委員へ参画。 ●会議の方法をオンライン形式も検討したが、職場や個人でネット環境が整わない方が多数であった。 		
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今回から検討委員に新たに加わった方もおり、それぞれの立場や地域の障害児者の状況等を含んだ情報交換が更にできるようになった。 ・施設職員、総合型クラブ職員、スポーツ推進委員が障がい者スポーツ指導員資格を取得した事で、今後、地域で活動するために重要となる関係性の構築もできた。 		

障害者のスポーツ活動の発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組				
実施団体	高知県社会福祉協議会			
取組の名称	県西部での障害者陸上記録会			
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組を行う。			
取組写真				
連携機関等	幡多地区陸上競技協会、障がい者スポーツ指導者協議会、知的障害者育成会、大方誠心園、ひかり共同作業所、わかふじ寮、中村特別支援学校、宿毛市スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスクラム、宿毛市社会福祉協議会等			
取組内容 種目・指導者 等	県西部での障害者陸上競技記録会の実施			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和3年11月6日	障害児者	66人	66人
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会への参加の拡大に向けた情報発信や運営の工夫 ・地域における他の取組の拡充につなげるためのネットワークづくりの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技運営を陸上競技協会から障がい者スポーツ指導員等へ移行していくため、午前中に審判講習会を実施し、主要部署の役割や動きの流れを学ぶ。 		
成果(○)と課題(●)	<p>○障がい者スポーツ指導員の協力者数が過去最多数となった。今後、競技運営を移行していくために審判講習会を実施し、次回以降も継続的な協力を得る事ができれば、指導員のスキル向上及びスムーズな競技運営が期待できる。</p> <p>○参加対象を幡多地域限定で募集したが、予想を上回る申し込みがあり、初参加団体や参加が遠のいていた団体からの申込もあった。</p> <p>●参加の少ない地域や施設等にも参加してもらえる働きかけが必要。</p> <p>●幡多地域に根差した大会を目指して内容の検討もしていく。</p>			
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・協力してくれた方々がとても意欲的に動いてくれ、競技運営がスムーズであった。今回審判講習会を実施し、軸となる指導員の方に主要な部署の動きを経験した事も運営主体を移行(陸上協会→指導員)していくうえで、次に繋がる大会となった。 ・コロナ禍でイベント等が中止となる中での開催は、参加した方及び関係者にとっては好評であった。 			

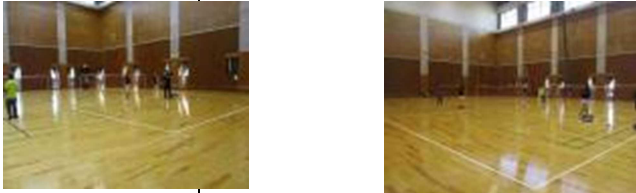
障害者のスポーツ活動の発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組				
実施団体	高知県社会福祉協議会			
取組の名称	県東部でのフライングディスク記録会			
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組を行う。			
取組写真				
連携機関等	高知県障がい者フライングディスク協会			
取組内容 種目・指導者等	県東部でのフライングディスク記録会の実施			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和4年1月23日	障害児者	9人	9人
	◆モデルづくりの視点		◆対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会への参加の拡大に向けた情報発信や運営の工夫 ・地域における他の取組の拡充につなげるためのネットワークづくりの工夫 		新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、他団体と交わる状況を極力避けて実施。	
成果 (○) 課題 (●)	●卒業生や在宅の障害者の参加が無く、参加者は特別支援学校の生徒のみであった。広報活動が十分にできていない状況であり、まずはどこにアプローチし、どこと連携を図るべきかを検討する必要があると感じた。			
取組の評価	参加した方は活動機会を楽しんでくれているが、在宅の障害のある方の参加がないため、情報提供の方法等について検討する必要がある。			


放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を 主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組				
実施団体	まほろばクラブ南国			
取組の名称	休日や放課後を利用したスポーツ体験教室			
目的	放課後や休日等の余暇時間に運動を希望する生徒や障害者福祉施設入所者（卒業生等）のスポーツ体験教室開催など複数の取り組みを行い、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
連携機関等	山田特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	フライングディスク指導者の派遣（指導者：中町 尚一）			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和3年11月15日 15:20~16:20	山田特別支援学校中学部・高等部	8人	14人
	令和3年11月22日 15:20~16:20	山田特別支援学校中学部・高等部	6人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	放課後や休日等の余暇時間の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた専門指導の工夫 ・大会に向けての専門指導 ・スポーツ施設を拠点とした実施 ・バスの送迎 		
成果（○）と課題（●）	<p>○大会のエントリー内容に合わせた指導ができた。</p> <p>○参加者が意欲的に指導に向き合っていた。</p> <p>●コロナの関係で予定が倒れたこともあり、調整が合わず実施日数が減ってしまった。</p> <p>●同様に、感染の予防から福祉施設を対象とした教室を行うことができなかった。</p>			
取組の評価	<p>フライングディスク記録会に向けこの教室に集まった生徒たちは、開始前からディスクを手に取り自主的に練習を行っており、開始後も指導に耳を傾けフォームを意識したりと集中を見せていた。また、今回初めて参加しフライングディスクに触れる生徒もいたが指導者に自らアドバイスを貰うことで次第に形が整い飛距離が伸びていく様を見ることができた。</p> <p>昨年に続き、福祉施設を対象とした教室を新型コロナウイルス感染症予防により実施できなかったことは残念に思う。</p>			


放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を 主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組			
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	児童生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント		
目的	外部施設を利用して生徒やその保護者、卒業生、地域住民など、誰もが気軽に参加 できる多種目のスポーツ活動を実施する。		
取組写真			
連携機関等	—		
取組内容・種目・指 導者等	まほろばクラブ南国秋の感謝祭		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年11月23日 10:00~14:00	山田特別支援学他（誰で も参加可）	総参加者：500名	計500人
◆モデルづくりの視点		◆対策	
総合型クラブや各取組の保護者や地域への周知と健常者と障害者が一緒に活動しやすくなるための工夫		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設を拠点とした実施 ・送迎バスの運行で交通手段の難点を減らす ・チラシ配布でイベント周知を図る 	
成果(○)と 課題(●)	<p>○学校へのチラシ配布を実施。</p> <p>○障がい者への対応に長けたスタッフを呼ぶことができた。</p> <p>●チラシの配布を行ったが、参加者は健常者のみとなった。</p> <p>●今後も支援学校や福祉施設などへの周知活動を心掛ける必要がある。</p> <p>●総合型クラブの認知を図る必要がある。</p>		
取組の評価	<p>・チラシの学校への掲示や一斉メール等、学校側の協力でイベントの周知ができたが感染予防で外部との接触を自粛している福祉施設は勿論、支援学校の参加者は0名という結果に終わった。理由として前年は参加があったことから、不特定多数が集まるイベント故にコロナ感染症に対しての不安があったのではないかと考えられる。また、特別支援学校からは参加意思はあったが、移動手段がなく断念したという理由をいただいた。イベント自体は普段経験の難しい競技用トランポリンや卓球、インラインスケート、スラックライン、跳び箱等、様々なスポーツや運動教室の体験ができ、小さいお子さんから年配の方まで幅広く来場し参加者数は約500名に達した。また、障害者が来館しても安全に対応出来るようにトランポリン指導者(3名中1人は障害者対応経験あり)をスタッフに呼び、当クラブ職員もブースに分かれて対応という体制を取ることができた。</p>		

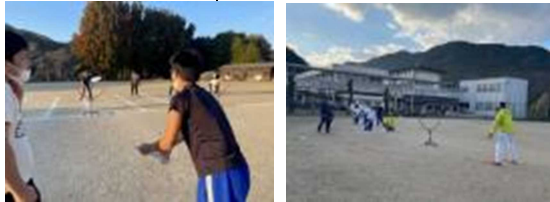
放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を 主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組				
実施団体	まほろばクラブ南国			
取組の名称	日常的な運動部活動へのバレーボール専門指導者（障がい者指導員有資格者）等の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
連携機関等	山田特別支援学校			
取組内容・種目・指導者	バドミントン指導者の派遣（指導者：桃田 高広）			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和3年12月9日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	11人	32人
	令和3年12月13日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	11人	
	令和3年12月16日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	10人	
	◆モデルづくりの視点		◆対策	
	支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		・ニーズに合った指導者の派遣	
成果（○）と課題（●）	○事業を繰り返すことで講師だけでなく事務局のことを認識してくれるようになった。 ○この指導者派遣を楽しみにしているという生徒の声を貰った。 ●練習時間が限られる。			
取組の評価	年々、外部から来ることになる指導者や事務局にも慣れリラックスした状態で活発な動きを見せてくれた。しかし、対照的に今年入部で初めての顔合わせになる生徒からは緊張を感じ動きも意欲もやや削がれているように感じた。 部活の時間が定まっている以上、時間を伸ばすことは難しいがその中でも個々の力量に合わせた内容を組み込むことができた。			

放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を 主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組			
実施団体	まほろばクラブ南国		
取組の名称	日常的な運動部活動へのバレーボール専門指導者（障がい者指導員有資格者）等の派遣		
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。		
取組写真			
連携機関等	山田特別支援学校		
取組内容・種目・指導者等	バレーボール指導者の派遣（指導者：笹岡 慎）		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年12月5日9:00~12:00	山田特別支援学校バレーボール部	9人	15人
令和3年12月19日9:00~12:00	山田特別支援学校バレーボール部	6人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
外部施設で運動が行える機会を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた専門指導の工夫 ・バス送迎 		
成果（○）と課題（●）	<p>○指導内容に集中しつつ、笑顔も絶えない空気のいい教室となった。</p> <p>○例年使用する場所を確保することでスムーズに準備ができた。</p> <p>○広々とプレーすることができた。</p> <p>●バスの調整ができない日があった。</p>		
取組の評価	<p>元々3回行う予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大により1回分が中止となってしまった。</p> <p>教室はアリーナを広々と使い密も回避しつつ、基礎から始まりミニゲーム形式まで行い充実した教室となった。中止となった3回目に計画をしていた本格的な試合形式での練習が行えなかったのは残念に思う。</p> <p>また、生徒は各々送迎で来ることはできたがバスの出せない日があった為、外部で教室を行う際の移動手段の確保が必要と考える。</p>		

放課後や休日等に運動を希望する生徒や障害者福祉施設の入所者等を 主なターゲットとして、地域のスポーツ施設等を活用する取組			
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	休日や放課後を利用したスポーツ体験教室		
目的	放課後や休日等の余暇時間に運動を希望する生徒や障害者福祉施設入所者（卒業生等）のスポーツ体験教室開催など複数の取り組みを行い、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。		
取組写真			
連携機関等	高知県立山田特別支援学校		
取組内容・種目・指導者等	バドミントン指導者の派遣 指導者：桃田 高広		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年12月11日 13:30~15:00	山田特別支援学校 バドミントン部 まほろばクラブサークル中学生	7人	13人
令和3年12月18日 13:30~15:00	山田特別支援学校 バドミントン部 まほろばクラブサークル中学生	6人	
◆モデルづくりの視点		◆対策	
放課後や休日等の余暇時間の有効活用		<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた専門指導の工夫 ・大会に向けての専門指導 ・スポーツ施設を拠点とした実施 ・バスの送迎 	
成果(○)と課題(●)	○3コートを使って待ち時間なく参加者が運動できた。 ○講師と参加者に壁がなく、ゲームメインの楽しい教室となった。 ●チャシの配布が遅くなり 寄宿生の保護者へもタイムラグが生じた。		
取組の評価	・同事業の『日常的な運動部活動へのバレーボール等の専門指導者等の派遣』のバドミントン部に対して例年続く課題【練習時間が短い、限られる】の対策として今年度より新しく取り組んだ教室だが、生徒からの申し込みがあり参加を得られる結果となった。しかし、寄宿舎生の中で保護者への認知が遅れ参加できなかった子もいるので、この辺りも考えたチャシの配布を心掛けていかなければならない。 ・教室では、控えている大会に向けゲーム風にした、ネットインができるようにしたい等、参加者や保護者の要望に沿ったそれぞれに合わせた指導を行うという少人数だからこそできる内容で実施した。		

特別支援学校の在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者を主なターゲットとした 取組や障害者スポーツの理解啓発の取組			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	関係者検討会議		
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツに楽しむことができる機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組のモデルづくりを行う。		
取組写真			
連携機関等	高知県立障害者スポーツセンター・高知県立日高特別支援学校・高知県立若草特別支援学校		
取組内容・種目・指導者等	特定非営利活動法人総合クラブとさ指導者（3B体操）：福原由紀 高知県立日高特別支援学校：山本英立 高知県立若草特別支援学校：山本幸彦 高知県立障害者スポーツセンター：渡邊英孝 土佐市社会福祉協議会：小松裕明 特定非営利活動法人総合クラブとさ理事：青木周作 特定非営利活動法人総合クラブとさスタッフ：田井直子・矢野和也		
実施期日	対象者	参加人数	計
2021年8月27日（金）15時～	関係者検討会議委員	7人	22人
2021年12月14日（火）15時30分～	関係者検討会議委員	8人	
2022年2月16日（水）16時～	関係者検討会議委員	7人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
—	—		
成果(○)と課題(●)	○今年にはコロナ禍での事業のため、学校や指導者の対応などを協議 ○コロナ禍なのでできないのではなく、コロナ禍でもできることを考えて開催していく方法を検討した。 ○今後も継続して活動を続けていくためには、受益者負担や保護者、学校が費用を負担することも検討が必要。 ●コロナ禍のため、今までと同じ指導が難しく、教えに行けない指導者もいた。		
取組の評価	色々な意見が出て話し合うことができたので、今後に繋がる意見交換ができた。		


特別支援学校の在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者を主なターゲットとした 取組や障害者スポーツの理解啓発の取組			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	リモート教室（ダンス、体操など）		
目的	コロナ禍で訪問や外出ができない中、リモート教室でのダンスなどを体験してもらおう。		
取組写真			
連携機関等	社会福祉法人くすのき		
取組内容・種目・指導者等	ダンス、3B体操、体操、エクササイズ エアロビクス：フィットネスインストラクター、健康運動指導士：①中山 真紀 3B体操：日本3B体操協会公認指導士：②福原由紀 体操：理学療法士：③橋本 貴紘		
実施期日	対象者	参加人数（人）	計
8/19 13：15～13：45（指導①）	生徒・職員	24人	137人
9/28 13：15～13：45（指導③）	生徒・職員	22人	
10/21 13：15～13：45（指導①）	生徒・職員	23人	
11/26 13：15～14：45（指導②）	生徒・職員	16人	
12/17 13：15～14：45（指導①）	生徒・職員	19人	
1/14 13：15～14：45（指導②）	生徒・職員	16人	
2/18 13：15～13：45（指導①）	生徒・職員	17人	
◆モデルづくりの視点		◆対策	
＊施設入所者が参加しやすい運営の工夫 ＊支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 ＊総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 ＊総合型クラブの既存スポーツ活動への参加につながる工夫		・1時間だと集中力がもたないということで、時間を30分～40分に変更した。	
成果(○)と課題(●)	○直接会わずに授業を受けられるため、コロナ感染のリスクを抑えられた。 ●リモートなので、相手との掛け合いやコミュニケーションが取りづらいので、改善の余地有。		
取組の評価	コロナ禍でのリモート教室は、感染リスクを抑えながら行えるので、今後も期待できる。		

総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生を ターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室		
目的	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
連携機関等	高知県立日高特別支援学校		
取組内容	フライングディスク教室		
種目・指導者等	フライングディスク：高知県フライングディスク協会：中町 尚一		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年11月18日(木) 15時40分～16時30分	生徒・職員	8人	16人
令和3年11月25日(木) 15時40分～16時30分	生徒・職員	8人	
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ・フライングディスクの大会前に開催することで、生徒達の関心が高かった。 	
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○大会に向けた練習ができ、生徒の自信になった。 ○専門の指導者が癖を見ながら、より飛ぶ方法を指導してくれたため、正確性や飛距離がのび、生徒たちのやる気に繋がった。 ○取組みにあたり、生徒だけでなく、先生方にも良い経験となっている。 ○大会に向けた練習ができ、生徒の自信になった。 ○専門の指導者が癖を見ながら、その中でどうすればより飛ぶのか指導してくれたため、正確性や飛距離がのび、生徒たちのやる気に繋がった。 ○大会に向けて学校で取り組むにあたり、生徒だけでなく、普段指導する先生方にも良い経験となっている。 		
取組の評価	大会に向けて練習できたことが良かった。先生方も普段の指導に活かせる内容として勉強になった。		

総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生を ターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	NPO法人総合クラブとさ			
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
連携機関等	高知県立日高特別支援学校			
取組内容・種目・ 指導者等	(種目) シットティングバレー、ゴールボール (講師) 障がい者スポーツセンター 渡邊英孝、(株)Workth 橋本貴紘・野田知秀			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和3年11月4日(木) 15:40~16:30 シットティングバレー	生徒・職員	19人	56名
	令和3年12月2日(木) 15:40~16:30 シットティングバレー	生徒・職員	19人	
	令和3年12月16日(木) 15:40~16:30 ゴールボール	生徒・職員	18人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 	シットティングバレーは、普通のバレーボールだと、障害の度合いによっては難しいので、柔らかいソフトバレーボールなどを使用した。ゴールボールは、ゴールボールの、ボールが硬く、少し危ないので、女子にはバレーボールにビニール袋をまいて対応した。		
成果(○)と課題 (●)	○シットティングバレーは3年目の指導となり、試合が出来るようになった。 ○ゴールボールは、先生もアイマスクをして参加した。目の見えない先生を生徒が誘導したりするなどして、一緒になって楽しめていた。 ●シットティングバレーは、試合形式になるとラリーが難しく、続かなかった。			
取組の評価	継続して開催することで、試合もラリーが続くようになり、楽しく学んでいた。			


総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室		
目的	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
連携機関等	高知県立日高特別支援学校		
取組内容・種目・指導者等	(種目) バドミントン		
	(講師) 沖原光明		
	実施期日	対象者	参加人数
	令和3年12月9日(木) 17:00~18:00	生徒・職員	7人
	令和4年1月27日(木) 17:00~18:00	生徒・職員	10人
			17人
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加し易い運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存スポーツ活動への参加につながる工夫 	専門の指導者の指導により、基礎から練習をしてもらう。他クラブとの交流。		
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○初めて土佐市民体育館に来て、バドミントンコートの支柱の立て方から行った。みんな知らない事ばかりだったので一生懸命、取り組んでいた。 ○専門の指導者に基礎から指導してもらうことができた。 ○高岡中学校1年生と小学6年生の男子と、練習試合を行い交流ができ、今後の励みにつながった。 ●学校以外の施設が気軽に利用できるしくみづくりが必要 ●送迎の問題が一番のネック 		
取組の評価	特別支援学校と、他の中学校との合同部活ということで、どちらの学生にもいい刺激になっていた。		

総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	NPO法人総合クラブとき		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室		
目的	在校生を対象に、普段行わない体験してもらう。		
取組写真			
連携機関等	高知県立若草特別支援学校		
会場	高知県立若草特別支援学校		
取組内容・種目・指導者等	フライングディスク教室・ボッチャ教室		
	ボッチャ	ボッチャ選手：足達 憲男・仁道 善久 障害者スポーツセンター：渡邊 英孝	
	フライングディスク	高知県フライングディスク協会：中町尚一	
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年11月16日(火) 15:30～16:30 ボッチャ	生徒・職員	7人	11人
令和3年11月16日(火) 15:30～16:30 フライングディスク	生徒・職員	4人	
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域へ周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ・種目は学校との相談で決めており、大会に出場する種目を主に練習した。 	
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ボッチャはボールを寄せるショット、弾くショットなど、基礎的なことや戦略についてもお話していただいた。 ○実際に大会に出場している方から指導を受けることで、生徒たちにわかりやすく、すぐに上達していた。 ○フライングディスク教室では、障がいの特性によって投げ方を変えることで、最初は飛ばなかった生徒も、終盤には飛ばせるようになっていた。 		
取組の評価	大会前に教えてもらうことができて良かった。専門的な指導で、わかりやすく、なにより楽しんで教わっていた。		

総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生を ターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室		
目的	障害者スポーツを体験することで、障害者に対する理解を深めてもらう。		
取組写真			
連携機関等	高知シードラゴンズ		
開催場所	土佐市民体育館		
取組内容	車いすバスケットボール		
種目・指導者等	車いすバスケットボール	高知シードラゴンズ: 田中博史・山本大・平川大悟・ 中澤英樹・上總啓二	
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年11月13日 14:00~16:00	イベント参加者	20人	20人
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)確保 *総合型クラブや各取組の保護者・地域へ周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを学校や、サークル会員に配布し、参加を呼び掛けた。 	
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○車いすバスケットボールは、参加者が多く、車いすが足りなくなる程だった。 ○参加者からは、楽しかった、もっとやりたいとの声か聞かれた。また保護者からも良い体験ができたと言われた。 ○日高特別支援学校生徒の参加があった。保護者の方からは、今年はコロナ禍で、子どもが運動不足になっていた。こういう機会をもっと増やしてくれるとありがたいという声を頂いた。 ○チラシを見て、春野の女子高生の参加があったので、今後の活動の案内をした。 		
取組の評価	参加者も多く、障がい者スポーツを知ってもらい、いい機会になった。		


総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校の在校生や卒業生を ターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室		
目的	障害者スポーツを体験することで、障害者に対する理解を深めてもらう		
取組写真			
連携機関等	土佐市立戸波中学校		
開催場所	戸波中学校		
取組内容	ゴールボール教室		
種目・指導者等	ゴールボール	障がい者スポーツセンター 渡邊英孝	
実施期日	対象者	参加人数	計
令和3年12月8日 10:30~12:00	生徒・職員	11人	11人
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材（地域ボランティアスタッフ）確保 *総合型クラブや各取組の保護者・地域へ周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携の強化 ・指導者の育成 	
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者に障がいの種類の説明をしてもらった。 ○ゴーグルをはめて、目がみえない状況にして歩くことの大変さを実感する事ができた。また補助をする人の大切さもわかった。 ○音だけを頼りにボールをつかんだり、同じ方向にボールを投げるのも難しいので、プロの競技者の凄さを感じる事ができた。 		
取組の評価	障がい者スポーツを健常者の学生に体験してもらうことで、学生の方はより深く障がいのことについて関心が持てた。		

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ体験教室			
会場	高岡郡四万十町本堂 405-4 四万十町窪川 B&G 海洋センター			
連携団体	NPO法人由菜の里			
対象者	作業所利用者			
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三			
実施日・参加数 種目	令和3年11月12日	利用者4人、職員2人	6人	計11人
	14:30~16:00	講師2人、スポーツ推進委員1人、くぼかわSC2人	5人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加しやすい運営の工夫		作業所利用者の正規就業時間後に、時間設定した。由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により行えた。		
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		スポーツ推進員が参加		
・総合型クラブや各取組みについて地域への周知		この法人は、日ごろからクラブとのかかわりが深い		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		支えるボランティアのなかで、クラブの会員として活動している者もいる		
成果(○)と課題(●)	○毎年参加してくれている団体であり、ボッチャに関してはルールもある程度理解していて、スムーズに教室を行うことが出来た。 ●施設外業務やイベント参加があり日程調整に時間を要した			
取組の評価	体験されている方が多く、上手くコントロールも出来ていて、ボッチャ競技の楽しみ方がわかっている。			


地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導講習会			
目的	指導者講習を行うことで、福祉・教育・スポーツの関係者を対象にボッチャの指導、支援者を広げ、各施設、事業などでもボッチャの技術を高め、今後の障害者スポーツの参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ指導者講習会			
会場	高岡郡四万十町南川口 108 四万十町立川口小学校			
連携団体	四万十町立川口小学校教職員、しまんと町社会福祉協議会職員			
対象者	各関係施設、関係団体			
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三			
実施日・参加数 種目	令和3年11月17日 15:00~16:30	参加者10人 講師1人、くぼかわSC2人	10人 3人	計13人
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・関係団体者が参加しやすい運営の工夫		関係団体との時間調整を図り、参加し易い時間等を考慮し実施。		
・学校関係者などへの周知		四万十町内の各学校等でもボッチャの活動を広めてもらうべく、直接講習会の参加依頼を行い協力を得た。		
・総合型クラブや各取組みの地域への周知		関係施設、団体、学校への周知。		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		貴校は他のスポーツ活動でも当クラブと関りがあるため参加に協力的だった。		
成果(○)と課題 (●)	<p>○ルール説明から始まり、技術的な指導方法など幅広い講習が開けた。参加者の感想でもあったが、「きちんとルールを把握できてなく、今回の講習会で勉強になった。」また、「色々な技術があることがわかり、講習を受け子供に対しても楽しさを伝えることが出来る。」などの感想も頂けた。</p> <p>○教職員や福祉施設の方も参加いただいたことで、支援者の広がりもでき、障害者スポーツの理解、ボッチャスポーツの道具からルール・技術向上のための指導方法などが得られた。</p> <p>●直接参加の働き掛けを行わないと中々参加は難しいように感じる。</p>			
取組の評価	今後も継続した指導講習会を行うことで各学校、施設での指導取組が期待できる。また、指導技術を学ぶことで各学校、施設での技術の広がりが見込める。			


地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	フライングディスク教室			
会場	高岡郡四万十町本堂 405-4 四万十町窪川 B&G 海洋センター			
連携団体	NPO法人由菜の里			
対象者	作業所利用者			
指導者	高知県障害者スポーツセンター 渡邊 英孝			
実施日・参加数 種目	令和3年11月19日	利用者5人、職員2人	7人	計10人
	14:30~16:00	講師1人、くぼかわSC2人	3人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加しやすい運営の工夫		作業所利用者の正規就業時間後に、時間設定した由菜の里が教室に対し配慮と運営協力があった		
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		確保できなかった。		
・総合型クラブや各取組みについて地域への周知		法人とは日ごろからクラブとのかかわりが深い		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		施設職員等で、クラブの活動に参加している		
成果(○)と課題(●)	<p>○的当て、ディスクゴルフなどフライングディスクだけにとらわれず色々なスポーツを取り入れたことにより、参加者も終始笑顔での体験となった。参加者の感想でもあったが、「始めは投げる難しさがあったが回数をこなすと慣れてきて思う方向に投げれるようになった。こういった活動には今後も参加していきたい」と温かい感想も頂けた。</p> <p>●施設外業務やイベント参加があり日程調整に苦労している。</p>			
取組の評価	法人は、日ごろから利用者の健康管理に力を入れており、パラスポーツにも理解を示しているため、今後も継続した取組が期待できる。			

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ体験教室			
会場	高岡郡四万十町南川口 108 四万十町立川口小学校			
連携団体	NPO法人由菜の里、四万十町立川口小学校生			
対象者	作業所利用者・小学生			
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三・横山麻希			
実施日・参加数 内容	令和3年11月26日	利用者2人、職員1人	37人	計42人
	AM10:35~12:00	小学生29人、教職員5人		
	PM14:00~15:30	講師2人、スポーツ推進委員1人、くぼかわSC2人	5人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加し易い運営の工夫		作業所利用者の正規就業時間後に、時間設定した。由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により行えた。		
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）確保		周囲の協力を仰いだ		
・総合型クラブや各取組みの地域へ周知		日ごろからクラブとのかかわりが深い		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		支えるボランティアのなかで、クラブの会員として活動している者もいる		
成果(○)と課題(●)	<p>○毎年参加する団体であり、ボッチャはルールもある程度理解していて、スムーズに教室を行うことが出来た。また、今回は町内小学校よりボッチャ体験の要望があり、小学生と障害者が触れ合いながら体験を行うことが出来た。小学生は初めての体験の子供も多く、お互いが協力しながらの体験となった。</p> <p>●施設外業務やイベント参加があり日程調整が難しかった</p>			
取組の評価	施設利用者の方は体験されている方が多く、上手くコントロールも出来ていて、ボッチャ競技の楽しみ方がわかっている。小学生も今回体験することでボッチャが楽しくなり、今後も学校でボッチャスポーツの活動をしていきたいとの声も頂いた。			

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ体験教室(リモート)			
会場	社会福祉法人明成会 オイコニア			
連携団体	オイコニア			
対象者	オイコニア入居者			
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三			
実施日・参加数	令和3年11月30日	入居者6人、職員2人	8人	計12人
種目	10:30~12:00	講師1人、くぼかわSC3人	4人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加し易い運営の工夫		・入所施設であり、日常生活の中での教室時間設定 ・昨年度に引き続き本年度も外部指導の入室が計画段階で厳しいとの判断で、リモートでの教室を開催した。		
・支える人材の確保		職員の運営協力。		
・総合型クラブや各取組の地域へ周知		周知方法の検討		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		既存活動へのつなげ方の検討		
成果(○)と課題(●)	<p>○リモート開催のため外部指導者が施設訪問することなく開催できた。施設のタブレットが利用でき、近くで撮影ができることにより、リアルに指導者に伝えることができた。</p> <p>●リモート機器のセッティングに時間が掛かってしまう。当日のスタッフがリモート開催の場合は多く必要になり、今後の課題である。スピーカーからの声が入居者に届きづらく、まだまだ工夫が必要であった。</p>			
取組の評価	施設利用者は普段からの体験者も多く、コントロールも上手い。また、ランプを使った方への指導が近くで撮影できたので、指導者も適切に指導ができていた。ボッチャの投球する順番なども、ブロックされている側から投球してもジャックボールに近づけないことも理解し、近づくための位置と投げ方を考えて実践していた。			

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の小学校でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ・福祉施設等が連携し、地域の小学校を対象にスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者スポーツの体験機会の拡充や各学校で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ体験教室			
会場	高岡郡四万十町十和川口 505-1 四万十町立十川小学校			
連携団体	四万十町立十川小学校・しまんと町社会福祉協議会			
対象者	小学生			
指導者	スポーツ推進委員 牧野 秀男			
実施日・参加人数	令和3年12月7日	小学生23人、教職員3人	26人	計32人
内容	13:30~15:00	スポーツ推進委員1人、くぼかわSC2人、しまんと町社協2人、大正・十和スポーツクラブ1人	6人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加し易い工夫		小学校の指定する時間に訪問し、教室を行った。		
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		しまんと町社会福祉協議会、大正・十和スポーツクラブ		
・総合型クラブや各取り組みについて地域への周知		周知は行っていない。		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		当クラブが行うスポーツ事業への参加もあり、協力的である。		
成果(○)と課題(●)	○小学校よりボッチャ体験の要望があり、小学生のボッチャ体験をすることが出来た。初めての体験の子供も多く、初めはボールのコントロールなど苦戦していたが時間が経つにつれ上手になった。体験が終わってもボッチャの道具のレンタル要望があり、自主的に練習をするとのことだった。			
取組の評価	今回体験することでボッチャが楽しくなり、今後も学校でボッチャスポーツの活動をしていきたいとの声も頂いた。			

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組				
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組み内容	ボッチャ体験教室			
会場	高岡郡四万十町本堂 405-4 四万十町窪川 B&G 海洋センター			
連携団体	NPO法人由菜の里			
対象者	作業所利用者			
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三			
実施日・参加数 種目	令和3年12月25日	利用者8人、職員3人	11人	計14人
	14:30~16:00	講師1人、くぼかわSC2人	3人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・施設入所者が参加しやすい運営の工夫		作業所利用者の正規就業時間後に、時間設定した。由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により行えた。		
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		確保できなかった。		
・総合型クラブや各取組の地域へ周知		日ごろからクラブとの関係性を醸成。		
・総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫		支えるボランティアのなかで、クラブの会員として活動している者もいる。		
成果(○)と課題(●)	○毎年参加の団体で、ボッチャはルールもある程度理解し、スムーズな教室運営ができた。 ●施設外業務やイベント参加があり日程調整が難しい			
取組の評価	体験されている方も多く、上手くコントロールも出来ていて、ボッチャ競技の楽しみ方を深めている。			

地域において障害者が持続可能なスポーツ活動につなげる取組			
実施団体	特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組み内容	ボッチャ体験教室(リモート)		
会場	社会福祉法人明成会 オイコニア		
連携団体	オイコニア		
対象者	オイコニア入居者		
指導者	高知県ボッチャ協会 横山昌三		
実施日	令和4年2月4日	入居者6人、職員1人	7人
参加数・内容	10:30~12:00	講師1人、くぼかわSC3人	4人
◆モデルづくりの視点		◆対策	
・施設入所者が参加しやすい運営の工夫		・入所施設であり、日常生活の中での教室時間設定 ・引き続きコロナ感染拡大の為、2回目の体験も外部指導の入室が厳しいとの判断で、リモートでの教室を開催した。	
・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保		職員の運営協力。	
・総合型クラブや各取組みについて地域への周知		周知できていない。	
・総合型クラブ実施の既存スポーツ活動への参加につながる工夫		今後の課題である。	
成果(○)と課題(●)	<p>○リモート開催の為外部指導者が施設に訪問することなく開催が出来た。施設のタブレットが借りれたため、近くでの撮影が出来たことにより、リアルに指導者に伝えることが出来た。参加してくれた方々も講師の話聞き実践しようとしてくれた。</p> <p>●2回目ということもあり、リモート機器のセッティングはスムーズにできたが、現状での開催となれば、入室できるスタッフの数に制限が掛かるので体験教室中の機器を使ったものは無理を生じてしまう。</p>		
取組の評価	施設利用者の方は日常より体験されている方が多く、上手くコントロール出来る方も多。また、ランプを使った方への指導を重点的に行い、体験者、職員がそれに習って練習ができ、距離感を学べた。		

V 成果と課題

◇ 成果

- リモート機器等を含む新たなスポーツ機会の提供により、学校や施設での活動以外にスポーツ活動を行うことがあまりなかった方々のスポーツ参加につながった。
- 各取組において多くの関係者の協力を得て展開できたことにより、それぞれの活動の充実が図られるとともに、支援者の増加、関係者の連携の広がり、障害者及び障害者スポーツの理解の深まりにつながった。
- 本事業をきっかけに関係者のネットワークが構築されたことにより、各団体の自主的な取組として展開していくための基盤をつくることができた。

◇ 今後の課題

- 本事業で展開した各取組の継続及び普及に向けた財源の確保や関係者のネットワークのさらなる強化。
- コロナ禍でも、施設等でスポーツ活動を継続することができるリモート機器の活用促進。
- 障害者のスポーツ活動のさらなる充実を図るために、県内各地域において障がい者スポーツ指導員の資格取得者を増やし、活躍できる機会を拡充することが必要。

参 考

令和3年度 高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱

(目的)

第1条 県内において障害者がスポーツに関心を寄せ、継続的にスポーツ活動に参加できる機会の拡充を図るための実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、課題の把握と解決に向けた取組の検討や実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及することを目的に、「障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(内容)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 課題の把握と解決に向けた取組の検討。
- (2) 実践研究の進捗管理。
- (3) 実践研究の成果等の検証。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成し、別表に掲げるもの（以下「委員」という。）をもって組織する。

2 委員は、高知県知事が次の各号に掲げる者のうちから、委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 実践団体関係者
- (3) 協力団体関係者
- (4) 県内スポーツ団体関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、本事業が完了するまでの期間とする。ただし、委員に変更があった場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会の委員長及び副委員長は、各1名とし、委員の互選とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、高知県文化体育スポーツ部スポーツ課長が招集する。

2 委員会の会議の議長は、委員長が務める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、高知県文化体育スポーツ部スポーツ課が行う。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

(附則)

この要綱は、令和3年7月15日から施行する。

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委員	常行 泰子	国立大学法人高知大学
	福本 志満	社会福祉法人高知県社会福祉協議会
	武市 光徳	NPO法人まほろばクラブ南国
	田井 直子	NPO法人総合クラブとさ
	藤田 昌伸	NPO法人くぼかわスポーツクラブ
	三好 喜久	高知県立山田特別支援学校
	土居 真一郎	高知県立日高特別支援学校
	原 博子	高知県立高知若草特別支援学校
	小野 智子	高知県立中村特別支援学校
	島崎 伸一	高知県スポーツ推進委員連絡協議会
小松むつ子	高知県レクリエーション協会	

本報告書は、スポーツ庁の令和3年度障害者スポーツ推進プロジェクトとして、高知県が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。